

さいがい じ たす あ
災害時に助け合うために

だい き やま と し た ぶん か きょうせい かい ぎ
第3期大和市多文化共生会議

ほうこくしよ
報告書

ねん がつ
2014年12月

1 外国人市民の災害に関する知識・備えの不足に対する対応

- フィールドワークを通してさまざまな聞き取り調査を行い、外国人市民の多くが、地震が発生した場合の対処方法がわからない傾向にあることがわかりました。
- 災害時に行政機関などが発信する情報を得ることができないために、外国人市民が不安を抱えたりすることのないよう、多言語や「やさしい日本語」での情報の提供が重要です。
- 市は、地域防災計画の中で、「多言語およびやさしい日本語による広報の充実やリーフレットの作成」を行うとしています。実際作成するにあたっては、ぜひ、わたしたちが作成した素案を活用いただけるよう望みます。

2 「支援される側」としてだけでなく「支援する側」としての外国人市民

- フィールドワークの際、「支援する側の一員として、日本人と一緒にサポートしたい」「外国人の一人として(同国人の中で)リーダーシップを発揮したい」という外国人の声がありました。
- 外国人市民は、災害時に支援を受ける側だけでなく、外国人を支援する側の担い手にもなり得ます。そのことを認識し、彼らの能力を発揮できる仕組みを整えていくことが大切です。

3 外国人市民への情報提供

- 行政から出される情報について、インターネット、Facebook を通しての情報提供を希望する声がありましたが、それらを使い慣れていない外国人も多いことから、一番要望が多かったのは、書面での情報提供でした。また、市の防災無線(スピーカー)も有効とする声もありました。
- 災害時の行政情報の提供はいくつもの方法によって行われる必要があります。こうしたニーズに対応できる仕組みとして、災害多言語支援センターの役割がとても重要であると再認識しました。

4 災害多言語支援センター設置・運営訓練の必要性

- 今回、わたしたちが手がけたネットワークが災害時に機能するためには、少なくとも年に一回程度の災害多言語支援センター設置・運営訓練を実施し、参加者を増やしつつ、参加者の間で災害時の外国人支援という目的を共有しながらネットワークを維持する必要があると考えます。
- 今後の訓練では災害多言語支援センターの運営方針を確立した上でボランティアの役割を明確にし、訓練が継続されることを大和市および国際化協会の双方に要望します。

5 さらにネットワークづくりに向けて

- 外国人当事者団体は、それぞれ現実の課題対処に迫られつつも、災害対策が重要であることを認識しており、日頃の活動の中で同胞の外国人に母国語で情報の提供を行い、また、問題が発生した際には、必要な支援を行っています。それは、混乱を極める災害発生時において、外国人にとって必要不可欠な支援です。
- 今回、わたしたちの手がけたネットワークが、災害時に外国人市民へ情報が確実に伝わるルートとなり、外国人市民にとって、また地域にとっての大切なセーフティーネットになることを望みます。そのためにも、大和市、国際化協会には、これからも関係団体、機関、そして外国人市民が協力し合えるネットワークの構築を継続されるよう要望します。

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災・福島第一原子力発電所事故は、大和市に住むわたしたちにとっても衝撃的な出来事でした。大災害が起きた場合、日本人市民でさえ混乱する中、外国人市民はどのような行動をとることができるのでしょうか。災害時の外国人支援の必要性を強く感じます。

大和市多文化共生会議は、外国人市民が日本人市民と同じ地域に暮らす住民として共生・協働できる地域づくりのために必要な取り組みを検討する会議です。

今回の第3期は、公募で集まった外国人委員および日本人委員12名に、日本女子大学清水睦美教授をファシリテーターとして迎え、「災害時の対策を軸とした多文化がつながるネットワークづくり」をテーマに掲げて、2年間活動を続けてきました。

本会議の活動の中で特に重視したのが、わたしたち多文化共生会議の委員や大和市国際化協会、大和市、日本語教室、外国人当事者団体などをはじめとする関係者間での「顔の見える関係づくり」です。災害に関する聞き取りを行うフィールドワークの実施や、地域防災訓練へ参加などをしながら、2014年7月には外国人支援に関係する人たちが集まって災害多言語支援センター設置・運営訓練を行い、大きな災害が起きた時にどのようにして外国人市民に情報を届けるのか、シミュレーションを行いました。

これらの活動を経て、参加者の間で外国人支援をめぐる関係性が生まれたように感じます。それは、これまで個々に地域の課題の解決に向けて活動していた人たちが、災害時の外国人支援という一つの目的を共有することができたからです。

災害が起きた場合、外国人は支援される側であると同時に、支援の担い手でもあることが今回の会議でもわかりました。わたしたちは、災害が起きた時でも助け合うことができるように、今後も多くの関係団体、機関の協力を得ながら、今回手がけたネットワークづくりを継続していくことが重要だと考えています。

2014年12月
第3期大和市多文化共生会議
委員長 岡崎 チャーメイン

だい き やまと し た ぶん か きょうせい かい ぎ い いんめい ぼ
第3期大和市多文化共生会議委員名簿

★委員長 ☆副委員長

No.	し めい 氏名	しゅっしん 出身	び こう 備考
1	あら い まさのり 新井 政則	に ほん 日本	かいしゃいん 会社員
2	いしま フロルデリサ	フィリピン	だい き だい き た ぶん か きょうせい かい ぎ い いん 第1期・第2期多文化共生会議委員
3	いとう ひろ こ 伊藤 裕子	に ほん 日本	ほうじんざいにち NPO法人在日カンボジアコミュニティ理事 ほうじんざい に ほん きょうかい かん じ NPO法人在日本ラオス協会監事
4	いとう もと み 伊藤 素美	に ほん 日本	に ほん ご きょうしつ 日本語教室ボランティア
5	いなふく スーザン	ペルー	だい き た ぶん か きょうせい かい ぎ ふく い いんちよう 第2期多文化共生会議副委員長
6	おかざき チャーメイン★	フィリピン	やま と し きょういく い いんかい がい こく ご かつ どう し どうじょしゆ 大和市教育委員会外国語活動指導助手
7	きくち けんいち 菊池 健一	に ほん 日本	こうざい やま と し こくさい か きょうかい とうろく (公財)大和市国際化協会登録ボランティア
8	こばやし ホルヘ	ペルー	ほうじん に ほん きょうせい きょうかい しよくいん NPO法人日本ペルー共生協会職員
9	こん の まさる 紺野 勝(※)	ベトナム	こうざい やま と し こくさい か きょうかい とうろく (公財)大和市国際化協会登録ボランティア
10	ファン チィ フォン	ベトナム	こうざい やま と し こくさい か きょうかい とうろく (公財)大和市国際化協会登録ボランティア
11	みやじま こう じ 宮嶋 耕治☆	に ほん 日本	もとかいしゃ やくいん もとこうえきほうじん かん じ 元会社役員・元公益法人監事
12	やま だ ちよん あ 山田 静娥	かんこく 韓国	こうざい やま と し こくさい か きょうかい とうろく (公財)大和市国際化協会登録ボランティア
-	しみず むつ み 清水 睦美	に ほん 日本	ファンリテーター / に ほんじょ し だいがく きょうじゆ 日本女子大学教授

(50音順)

(※) とうしょ こん の し い いんちよう つと いっしんじよう つごう にん き と ちゆう じたい
当初、紺野氏が委員長を務めたが、一身上の都合により任期途中で辞退したため、
以降はおかざき し い いんちよう つと
以降は岡崎氏が委員長を務めた。

い いんちよう にん き ねん がつ ねん がつ こん の まさる
(委員長の任期) 2013年2月～2013年12月 紺野 勝
ねん がつ ねん がつ おかざき
2013年12月～2014年12月 岡崎 チャーメイン

もくじ
目次

はじめに	1
第3期大和市多文化共生会議委員名簿	2
I 第3期大和市多文化共生会議の概要	4
1 会議の目的	
2 形式	
3 委員の任期	
4 構成員	
5 検討テーマ	
6 テーマの背景	
7 会議の開催状況	
II 経過	7
1 課題の共有と災害時の支援内容の検討	
2 フィールドワーク	
3 災害多言語支援センター設置・運営訓練	
III 報告	21
1 外国人市民の災害に関する知識・備えの不足に対する対応	
2 「支援される側」としてだけでなく「支援する側」としての外国人市民	
3 外国人市民への情報提供	
4 災害多言語支援センター設置・運営訓練の必要性	
5 さらなるネットワークづくりに向けて	
IV 資料	25
1 第3期大和市多文化共生会議設置要綱	
2 大和市の外国人登録者数の推移	
3 大和市外国人登録者男女別年齢別内訳	

I 第3期大和市多文化共生会議の概要

1 会議の目的

- (1) 大和市における多文化共生社会の実現
- (2) 外国人市民の地域参加の促進
- (3) 日本人市民と外国人市民が共生・協働するための課題の解決に向けて協議できる場の設定

2 形式

- 公益財団法人大和市国際化協会は、市から当事業を受託し、会議を開催する。
- 会議は日本語で進行する。
- 会議の経過は報告書にまとめ、大和市国際化協会理事長に提出する。協会理事長は、大和市に報告するとともに、これを市民に公表する。

3 委員の任期

2013年2月～2015年1月

4 構成員

2013年2月、公益財団法人大和市国際化協会の公募に応じた外国人市民7名、日本人市民5名のあわせて12名の委員によって、第3期大和市多文化共生会議が発足しました(1名は任期途中で辞退)。

この会議には、委員のほかにファシリテーターとして日本女子大学の清水睦美教授に参画していただきました。

5 検討テーマ

災害時対策を軸とした外国人、日本人を含めた多文化がつながるネットワークづくり

6 テーマの背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災・福島第一原子力発電所事故は日本に住むすべての人に大きな衝撃を与えました。外国人の中には、日本の生活習慣になじみが薄く、日本語がそれほど理解できない人もいることから、行政の避難指示がわからなかったり、状況がよく把握できずに極度の不安におそわれたりする事態がおこりました。

さいがいじ がいこくじん しえん ねん ほんしんあわじ だいしんさい ねん ちゆうえつ じしん
 災害時の外国人支援は、1995年の阪神淡路大震災をはじめ、2004年の中越地震
 および 2007年の中越沖地震など、相次ぐ災害の中で試行錯誤を繰り返しながら全国
 的な取り組みが進み、ノウハウも蓄積されてきています。

これに対して、大和市は、地域防災計画の中で、外国人に対する災害時対策を行う
 としているものの、外国人に配慮した防災訓練の実施や、災害時の支援体制づくりなど
 をとつても、具体的な取り組みが行われているとは言い難い状況にあります。いつ起こる
 かわからない災害に備えるため、災害が起きる前に具体的な取り組みを始めなければ
 なりません。

大和市には、大和市国際化協会や NPO 法人、日本語サークルなど、長年にわたり多
 文化共生や外国人支援について活動している団体が数多く存在し、外国料理店や教
 会など、外国人の拠り所となる場所もあります。また、日本に長年住み、日本語が堪能
 で、同胞のリーダーとしての資質に富んだ外国人市民も多く住んでいます。これらの利点
 を外国人支援の枠組みづくりに活かし、外国人、日本人を含めたネットワークを通して外
 国人が災害時でも情報入手しやすい環境づくりを目指したいと考え、このテーマを設
 定しました。

7 会議の開催状況

かい 回	にちじ 日時	ばしょ 場所	ないよう 内容
1	ねん がつ にち ど 2013年2月9日(土)	やまと し やくしよ 大和市役所 ぶんちようしや 分庁舎	やまと し こくさい か げんじよう せつめい 大和市の国際化のあゆみと現状の説明 た ぶん か きようせい かい ぎ がいよう 多文化共生会議の概要 じ こしようかい 自己紹介
2	がつ にち ど 3月9日(土)	やまと し やくしよ 大和市役所 ぶんちようしや 分庁舎	だい きでいげん よ あ 第2期提言の読み合わせ だい きでいげん もと いけんこうかん 第2期提言に基づく意見交換
3	がつ にち ど 5月25日(土)	やまと し やくしよ 大和市役所 ぶんちようしや 分庁舎	さいがい たげん ご しえん 災害多言語支援センターの説明 せつめい フィールドワーク先の検討
4	がつ にち ど 6月29日(土)	やまと し やくしよ 大和市役所 ぶんちようしや 分庁舎	さいがい じ がいこくじん しえん 災害時の外国人支援についてのまとめ やまと し やくしよ きき かんり か はなし 大和市役所危機管理課の話 しつ ぎ おうとう 質疑応答
5	がつ にち にち 8月4日(日)	しも わだ さと 下和田の郷	フィールドワーク① おとう さんと おかあ さんのための にほん ごきょうしつ 日本語教室
6	がつ にち ど 9月14日(土)	やまと し やくしよ 大和市役所 ぶんちようしや 分庁舎	フィールドワーク② かながわ ベトナム しんぜんきょうかい 親善協会

7	10月6日(日)	ラオス文化センター	フィールドワーク③ NPO法人 在日本ラオス協会
8	10月19日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	避難所運営ゲーム「HUG」 ゲーム後の振り返り
9	11月10日(日)	高座教会	フィールドワーク④ カンバーランド長老キリスト教会高座教会
10	12月14日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	フィールドワーク⑤ NPO法人 在日カンボジアコミュニティ
11	2014年3月8日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	これまでのフィールドワークの振り返り 今後の会議で実施することの確認
12	4月19日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	福島県の外国人アンケートについて 災害多言語支援センター設置・運営訓練について
13	5月31日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	災害多言語支援センターの機能について 災害多言語支援センター設置・運営訓練について
14	6月21日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	災害多言語支援センター設置・運営訓練の事前説明会
15	7月26日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	災害多言語支援センター設置・運営訓練の実施
16	8月9日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	災害多言語支援センター設置・運営訓練の振り返り
17	8月23日(土)	深見小学校	大和市総合防災訓練への参加
18	10月18日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	大和市総合防災訓練の振り返り 報告書(案)と意見交換
19	11月15日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	報告書(案)と意見交換
20	12月20日(土)	大和市役所 ぶんちょうしゃ 分庁舎	国際化協会理事長へ報告書提出

II 経過

1 課題の共有と災害時の支援内容の検討

(1) 課題の共有

本会議の活動を始めるにあたって、市国際・男女共同参画課から、大和市の国際化の歩み、外国人を取り巻く状況、行政の外国人施策について話を伺いました。次に、第2期多文化共生会議でまとめられた防災に関する提言内容の読み合わせを行い、災害時における、外国人支援の課題と施策の現状に関する理解を深めました。

また、市危機管理課からは、災害発生時における市内の被害想定と市の動き(市職員の参集や災害対策本部の立ち上げなど)、避難所に来る市民の受け入れの流れ、そして、各地域で立ち上がる避難所運営委員会の現状と課題などについて話を伺いました。

これらの情報から、災害時において外国人が直面する最も大きな課題は、「言葉の壁による情報の不足」と「生活習慣や価値観の違いから生まれる周囲との摩擦」であることが見えてきました。

(2) 災害多言語支援センターの想定される役割

外国人が直面する大きな課題である「言葉の壁」の解決に向けて、過去の災害では、「災害時多言語支援センター」が設置され、行政機関などからの重要な情報を多言語に翻訳し、ラジオ、インターネット、紙媒体などを通して情報の提供を行いました。第2期では、この「災害時多言語支援センターの設置」を求める提言が提出され、大和市は市地域防災計画の中で「外国人に対する防災対策」の一環に、『(公財)大和市国際化協会と連携して、「災害多言語支援センターの設置・運営訓練」を実施する』と明記しています。しかし、その運営マニュアルの作成や訓練の実施に関してはまだ具体化していない状況でした。

そこで、本会議では、過去の事例を参考に、災害多言語支援センター(以下、「多言語支援センター」という)の支援内容について意見を交わし、その素案を以下のとおりまとめました。(イメージ図10 ページ参照)

支援内容	備考
① 多言語情報の提供(通訳・翻訳)	外国人市民に多言語の情報を提供
② 避難所の巡回	避難所を巡回して、外国人市民の被災状況を把握

③ 問い合わせ対応	外国人被災者についての外部からのさまざまな問い合わせに対応
④ ボランティアの受け入れ	多言語支援センターを運営するボランティアのコーディネーター
⑤ 外国人が集まる避難所の運営支援	外国人市民のいる避難所を支援

委員全体で多言語支援センターをイメージできたところで、支援内容の一つである「①多言語情報の提供」に関わる訓練を実施することとなりました。

(3) 避難所の検討

避難所に避難してくる外国人のうち、中には言葉の壁はもとより、生活習慣などの違いから極度の精神的ストレスを抱える外国人が出てくる場合が考えられます。その課題への対処法の一つとして、「外国人専用の避難所の開設が必要なのではないか」という点について委員の間で議論となりました。

「災害時は、日本人、外国人を問わず、誰もが困難な状況に置かれているので、外国人を特別扱いせず、日本人と対等にしていけるべき」との考えから、「外国人も日本人と一緒に避難所でよいので、専用の避難所はいらない」とする意見がありました。

一方、「日本語がうまく話せない人たちの不安が解消できる」との考えから、「外国人専用の避難所があってもよい」という意見も出されました。

このことについては、後に各団体を訪問するフィールドワークの質問事項に加え、聞き取り調査を行いました。

(4) 避難所運営の体験

多言語支援センターが担う支援内容の一つに、「避難所の巡回」があります。避難所に行くと、外国人被災者の被害状況やニーズを聞き取るものですが、実際の避難所はどのような状況におかれるのかを想像することは容易ではありません。避難所ではどのような事態が起こりうるのかを知るために、静岡県が開発した「HUG」ゲームを行い、避難所運営を模擬体験しました。ゲームを通して、避難所には、個々の事情を抱えている人、また特別な配慮を必要とする人も避難してくることがわかり、避難所の運営は想像以上にむずかしいことを実感しました。

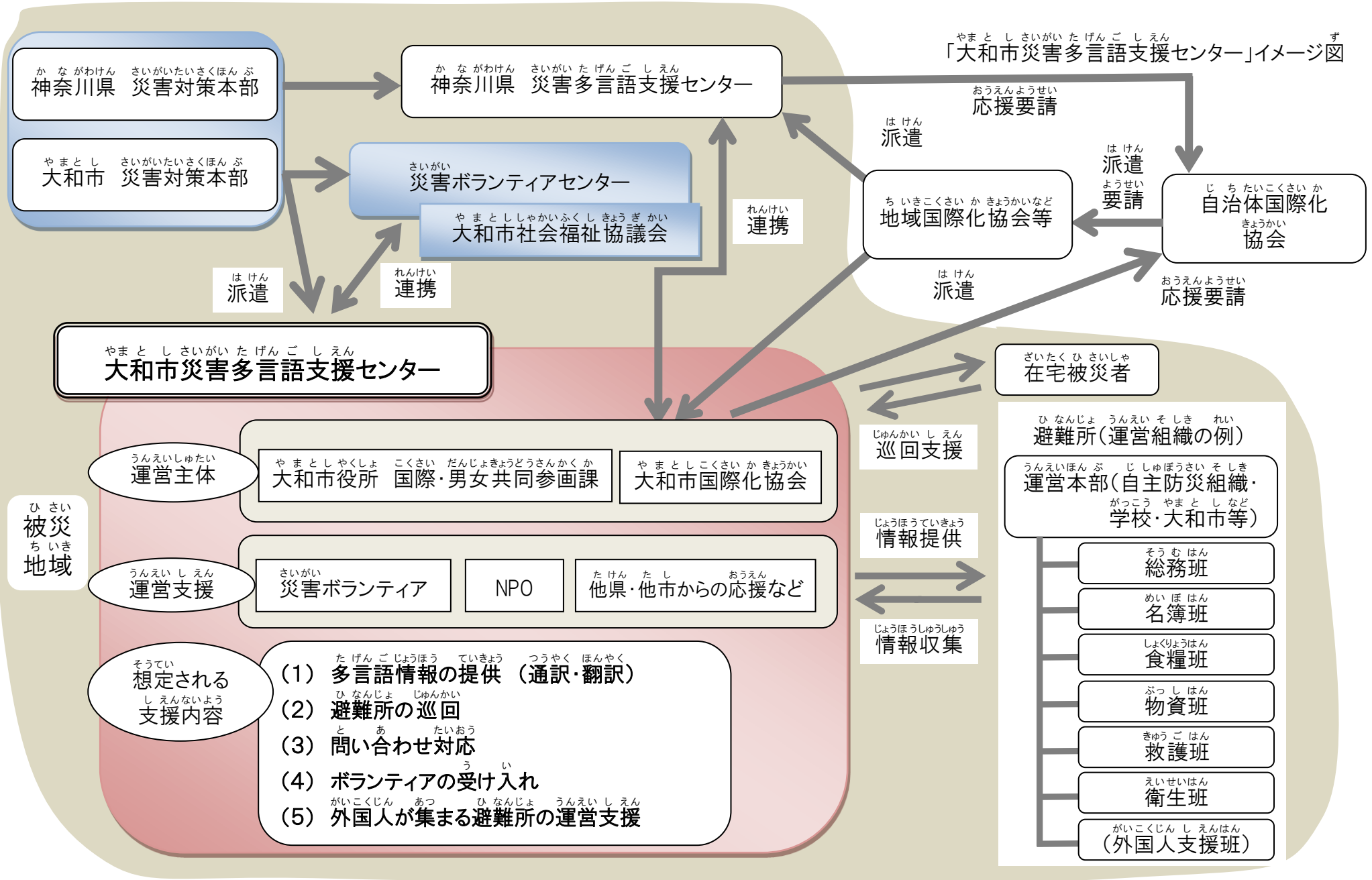
避難所運営ゲーム「HUG」とは

避難所運営を考^{かんが}えるためのひとつの^{しずおかけん}アプローチとして^{かいほう}静岡県が開発した^{ひなんしゃ}ものです。避難者の^{ねん}年齢や^{れい}性別、^{せいべつ}国籍や^{こくせき}それぞれが^{かか}抱える^{じじょう}事情が^か書かれた^かカードを、^{ひなんじょ}避難所の^{たいいくかん}体育館や^{きょうしつ}教室に見^み立てた^{たいめんず}平面図に^{てきせつ}どれだけ^{はいち}適切に^{ひなんじょ}配置^おできるか、また^{さまざま}避難所^でで^{きごと}起こる^{たいおう}様々な^{たいおう}出来事^にに^{どう}どう^{たいおう}対応^{して}してい^くかを^も模擬^{たいけん}体験^{する}する^{ゲーム}ゲーム^{です}です。HUGは^{ひなんじょ}H(hinanjo 避難所)、^{うんえい}U(unei 運営)、^{ゲーム}G(game ゲーム)^のの^{かしら}頭^も文字^じをと^とった^{もの}もので、^{えいご}英語^でで「^だ抱^きし^める」と^いいう^い意味^{です}。



避難所運営ゲーム「HUG」の^{ひと}一^{コマ}コマ

「大和市災害多言語支援センター」イメージ図

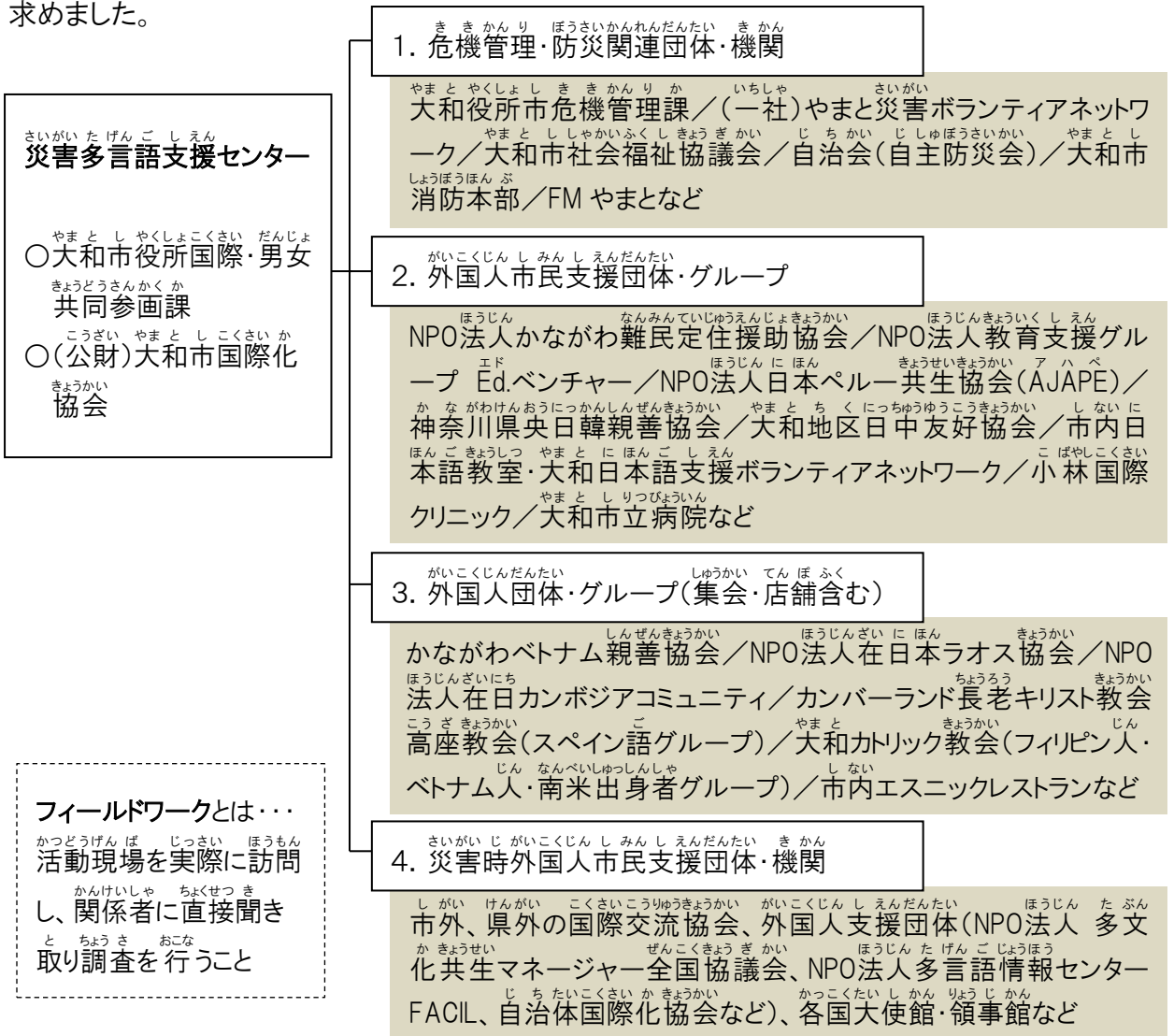


2 フィールドワーク

(1) 多文化がつながるネットワーク

委員で地域における課題を共有した後、災害時に外国人被災者を支援する多言語支援センターの担い手として重要と考える団体・機関を以下のとおり想定してみました。市危機管理課を始めとする防災関連機関、NPOなどの外国人市民支援団体、外国人当事者団体、その他市外、県外の外国人支援団体などを挙げました。これらの各団体、機関が協力して、必要な情報の提供や支援を行うことができれば、外国人被災者のライフラインを確保することにつながるでしょう。

そのような関係づくりの一步として、いくつかの団体を訪問し、災害時への対応の状況や抱えている課題などについて聞き取りを行うフィールドワークを実施しました。また、災害時に、市国際・男女共同参画課と国際化協会が協働して、多言語支援センターを立ち上げること、そして、多言語支援センターの想定される活動内容に対し理解と協力をもと求めました。



(2) フィールドワークでの質問事項

各団体への質問内容は大別して、①災害時での対応で考えていることは何か、②仲間同士との連絡は普段どのように取り合っているか、また行政からの情報提供はどのような方法がよいと考えるか、③災害への備えとして避難所の場所の確認ができていないか、またその利用を考えているか、に分けられ、個々の質問を以下のとおり考え、聞き取りを行いました。なお、聞き取りの詳細は15～16ページにまとめました。

質問		質問の意図
① 1	災害が起きたとき、グループで事前に考えていることはありますか？	団体として事前に災害の備えをしているのかどうか。
② 2	普段どのように連絡をとりあっていますか？	団体のメンバー間の連絡手段はどのようなものか。
② 3	その連絡方法は、災害の時の連絡手段をあらかじめ決めてありますか？	災害時における連絡手段は事前に決めているのかどうか。
③ 4	災害の時の避難所を知っていますか？	災害に関する知識はあるのか。避難行動について、理解しているのかどうか。
③ 5	災害の時に困ったことを相談する時、誰を思い浮かべますか？	団体がつながりを持っているところはどこなのか。
③ 6	外国人専用の避難所があれば、利用しますか？	避難所での生活について、どのくらい不安に感じているのか。
① 7	災害ボランティア登録があったら、ボランティア登録ができますか？	災害時に支援する立場で協力できる人はどのくらいいるのか。
① 8	自治会など地域の人と災害時に行動することは考えられますか？	近くにいる人のサポートはどのくらい受けることができるのか。
② 9	行政から出される情報はどのような方法で提供してほしいですか？	どのように情報を受け取っているのか。
- 10	来日して間もない人で、困っている人はいますか？	団体に関連する外国人のうち、どのくらいの人が困難な状況におかれているのか。
- 11	団体として抱えている一番の問題はなんでしょうか？防災は課題ですか？	団体が抱える課題は何なのか。災害対策は課題として認識されているのか。

(3) 対象団体

想定したネットワークのうち、日本語を学習している外国人が所属している日本語教室と同国人のコミュニティとして機能している外国人当事者団体の5団体をピックアップし、聞き取りを行いました。

① お父さんとお母さんのための日本語教室

概要： NPO法人教育支援グループEd.ベンチャーが実施している日本語教室。毎週日曜日に渋谷中学校学校開放スペースで開催している。学習者は約15名。出身はカンボジア、中国、ベトナムなど。入門、初級の2クラスがある。9名の学習者(カンボジアと中国出身)から回答を得た。

日時： 2013年8月4日(日)11:00～

場所： 渋谷中学校学校開放



② かながわベトナム親善協会

概要： 1994年12月設立。在日ベトナム人、難民を支援する互助組織で、ベトナム文化の紹介、ベトナム語教育や通訳・翻訳サービス、相談活動などを行っている。団体代表から回答を得た。

日時： 2013年9月14日(土)14:00～

場所： 大和市役所分庁舎2階



③ NPO法人在日本ラオス協会

概要： 2013年4月NPO法人化。ラオスの僧侶が常駐する愛川町の在日ラオス文化センターを拠点とし、在日ラオス人の入国・帰国手続きや通訳のサポートなどの支援を行っている。7名のメンバーから回答を得た。

日時： 2013年10月6日(土)13:30～

場所： ラオス文化センター(愛川町)



④ ^{ちやうろう} ^{きやうかいこうざ} ^{きやうかい} ^ご カンバーランド長老キリスト教会高座教会スペイン語グループ

概要: ^{やまと} ^し ^{みなみりんかん} 大和市南林間にある^{きやうかい} プロテスタント教会。スペイン語グループは約100名^{めいざいせき} 在籍して、^{ちゆうかく} 中核メンバーは^{ひがし} ^に ^{ほんだいしんさい} ^ひ ^{さい} ^ち ^し ^{えん} 東日本大震災の被災地支援などの^{かつどう} ^{おこな} ボランティア活動を行っている。来日^{らいにち} 10年以上の^ご スペイン語グループ(アルゼンチン、ペルー、^{しゆっしん} ^{めい} ^{かいどう} ^え パラグアイ出身)7名のメンバーから回答を得た。



日時: ^{ねん} ^{がつ} ^{にち} ^{にち} 2013年11月10日(日)17:00～
場所: ^{こうざ} ^{きやうかい} ^{やまと} ^し ^{みなみりんかん} 高座教会(大和市南林間)

⑤ ^{ほうじんざいにち} NPO法人在日カンボジアコミュニティ

概要: ^{ねん} ^{がつ} ^{ほうじん} ^か ^{ぶん} ^か ^{ひろ} 2012年5月NPO法人化。カンボジアの文化を広く^に ^{ほんしゃかい} ^{つた} ^て ^{つづ} ^{そうだん} ^{おう} 日本社会に伝え、ビザの^て ^{つづ} ^{そうだん} ^{おう} 手続きや相談に応じるなど^{ざいにち} ^{じん} 在日カンボジア人へのサポートのほか、^ぼ 母国への^し ^{えん} ^{かつどう} ^{おこな} ^{だんたい} ^{だいひよう} 支援活動も行っている。団体の代表と^じ ^む ^{きよくちやう} ^{めい} ^{かいどう} ^え 事務局長の2名から回答を得た。



日時: ^{ねん} ^{がつ} ^{にち} ^ど 2013年12月14日(土)14:00～
場所: ^{やまと} ^し ^{やくしよ} ^{ぶんちやうしや} ^{かい} 大和市役所分庁舎2階



フィールドワークを終えて(ラオス文化センター前)

(4) 調査結果

No.	質問内容		① お父さんとお母さんのための日本語教室	② かながわベトナム親善協会	③ NPO法人在日本ラオス協会	④ カンパウンド長老キリスト教会高座教会スペイン語グループ	⑤ NPO法人在日カンボジアコミュニティ
	対象者	学習者9名	メンバー1名	メンバー7名	メンバー7名	メンバー2名	
	場所	渋谷中学校(大和市)	分庁舎(大和市)	ラオス文化センター(愛川町)	高座教会(大和市)	分庁舎(大和市)	
1	災害が起きたとき、グループで事前に対応を考えていることはありますか？	(教室として)災害が起きた時の対応を事前を考えていることはほとんどない。	(災害時には)リーダーが中心となって対応していく。	①各地域で連絡を取り合う。 ②大事な書類を保管する。 ③家庭で食糧を備蓄する。	とくにない。	いちよう団地の中などにリーダーをおくことを考えている。	
2	普段、どのように連絡をとりあっていますか？インターネットを使ったサービスは利用していますか？	「携帯電話を使う」9名 「冷蔵庫にメモ」1名 「スカイプ」3名	電話の場合が多く、メールで相談することは少ない。インターネットを使ったサービスを利用している人はたくさんいる。	郵便、Facebook を利用している。親世代(50～60代)はラオス語、子ども世代(20～30代)は日本語を使う。	電話やFacebook をよく使う。LINE はそれほど使う機会がないが、子どもたちはよく使っている。	一番よく使うのはEメール。電話、Skype、Facebook、LINE なども利用する。	
3	その連絡方法は、災害時の連絡手段をあらかじめ決めてありますか？	「Skype(インターネット)を使う」3名	決めていない。	緊急のときの連絡網をすでに決めていない。	牧師先生からの連絡が10人にリーダーを通じて全員に届くようにしている。	まだ決めていない。50名ほどのメンバーの連絡リストはある。	
4	災害の時の避難所を知っていますか？	「知っている」8名 「知らない」1名	知らない人が多い(と思う)。	「知っている」3名 「知らない」4名	「知っている」4名 「知らない」3名	知っている。(3.11以前はしかなかった)	
5	災害の時に困ったことを相談する時、誰を思い浮かべますか？	「家族、子ども」多数	①かながわ難民定住援助協会②カトリック教会のベトナム神父③国際化協会	いまのところ、特になし。できるだけ自分たちで解決しようと考えている。	-	自治会の班長。周りにいる友人。	
6	外国人専用の避難所があれば、利用しますか？	「利用する」9名 (そのうち、「あれば利用するが、どちらでもいい」3名)	日本人と同じ避難所でない。(利用しない)	「利用する」1名 「利用しない」4名	「利用する」1名 「どちらでもいい」3名 「利用しない」5名	利用すると思うし、あった方がいい。	
7	災害ボランティア登録があったら、登録はできますか？	「登録できる」多数	登録できる	「登録できる」多数	「登録できる」多数	個人として登録できる	

No.	質問内容	① お父さんとお母さんのための日本語教室	② かながわベトナム親善協会	③ NPO法人在日本ラオス協会	④ カンバーランド長老キリスト教会高座教会スペイン語グループ	⑤ NPO法人在日カンボジアコミュニティ
8	自治会など地域の人と災害時に行動することは考えられますか？	-	(いちよう団地など)自治会の人たちと関係を持っているベトナム人はいる。	ラオス人は全員自治会に入っている。	「行動する」5名 「行動しない」2名	おそらく一緒に行動すると思う。
9	行政から出される情報はどのような方法で提供してほしいですか？	-	紙が一番よい。インターネットもよいが、使い慣れていない人もいます。	紙が一番よい。あわせてFacebookなどでも情報があるといと思う。	防災無線(スピーカー)がよい。そのほかにFacebook、紙での情報提供があるとよい。	スピーカーでアナウンスしてほしい。紙でもよいが、時間がかかるので、Facebookなどもあるとよい。
10	来日して間もない人で、困っている人はいますか？	-	困っている人は多く、場合によっては相談に応じることもある。	呼び寄せで来日するケースが多く、困りごとに対応することもある。	100名ほどのメンバーのうち、ほとんどが来日して10年以上のため、来日間もない人は少ない。	仕事や日本語学習、ビザなど、よく相談を受けている。
11	団体として抱えている一番の問題は何でしょうか？ 防災は課題ですか？	-	①仕事、②病気の問題が先にあり、災害のことはあまり考えていない。災害のときは本国に帰ると考えている人もいます。	①運営費の問題、②イベントのときの屋外スペースがないこと、③駐車場がないこと、④長老がいないこと	ことば(日本語や漢字)の問題。日本の文化を理解できなくては日本語が理解できない。	①協力者が少ない。②カンボジア語ができる人材がいない。③相談体制が確立されていない。
12	その他	○(外国人専用の避難所を利用すると回答)「普段は日本人と同様に生活しているが、災害時はまた別のもの」 ○母国語で相談できる場所、窓口があるとよい。	災害のときに、困っている人から相談された場合、ベトナム人であれば、テントでも立てるなど何とか対応しようと思う。	ラオス人は、自治会などの地域でのつながりはあるが、職場でのつながりはどうなっているのかわからない。	いちばん必要なことは、多言語での情報提供。自分自身は外国人だが、支援する側の一員として日本人と一緒にサポートしたい気持ちがある。	だれに從っていいのか分からないと困るので、日本人のリーダーをはっきり決めてほしい。私個人は、外国人のひとり一人としてリーダーシップを發揮したいと思っている。

3 災害多言語支援センター設置・運営訓練

(1) 訓練の概要

会議において多言語支援センターの支援内容を検討してきたものの、そもそも多言語支援センターは立ち上げや運営方針が協定書締結などの形ではっきりと定まっているわけではありません。このままでは実際に災害が起きたときに外国人支援がどのようにされるのかはまったくの不透明です。そこで、会議で検討してきた多言語支援センターの支援内容を実施する訓練を行うことで、実際の現場を模擬体験し、参加者間の関係づくりにつなげていこうと考えました。

この訓練は、大和市地域防災計画における最大規模の被害を想定した上で多言語支援センターを設置し、参加者が協力しながら外国人への情報提供を行うものです。

(20 ページ参照)

訓練に先がけて、参加者の顔合わせを兼ねた事前説明会を行い、多言語支援センターの役割、訓練の目的について参加者同士で確認しながら、訓練に関する質疑応答を実施した上で訓練に臨みました。

(2) 事前説明会および訓練の実施日時・場所

	事前説明会	訓練
日時	2014年6月21日(土)	2014年7月26日(土)
場所	大和市役所分庁舎3階	大和市役所分庁舎3階

(3) 訓練の目的

- ①災害対策本部(大和市役所)から発信されるさまざまな情報を「やさしい日本語」に直したり、多言語に翻訳したりするときの作業の流れを確認する。
- ②国際化協会と他団体や外国人市民など関係者が協力し合えるネットワークをつくる。

(4) 訓練の参加者

多文化共生会議委員、NPO法人日本ペルー共生協会、すたんどばいみー、NPO法人在日本ラオス協会、かながわベトナム親善協会、日本語教室ボランティア、国際化協会登録ボランティア、大和市役所危機管理課および国際・男女共同参画課職員、国際化協会職員および通訳員(合計33名)

(5) 訓練の内容

- ①市と協会による多言語支援センター立ち上げ
- ②市災害対策本部から送られてくると想定される情報(紙媒体17 ページ)の内容を確認し、優先順位をつけるなど情報を選別し、グループごとに割り振った情報提供先(避難所掲示板、ホームページ、Facebook、FM やまと)に配慮しつつ、「やさしい日本語」と「多言語」への翻訳。(Facebook、ホームページに関しては、翻訳した情報を実際にインターネット上にアップデートし、その他は紙に直接手書きした。)

(6) グループの内訳

参加者は以下の通り、言語別のグループに分かれて、それぞれ情報の提供先を限定して作業にあたりました。

言語別グループ	情報提供先	参加人数
英語グループ	FM やまと	5 名
スペイン語グループ	Facebook	4 名
ベトナム語グループ	渋谷小学校避難所掲示板	3 名
中国語グループ	ホームページ	5 名
タガログ語グループ	中央林間小学校避難所掲示板	6 名
ラオス語・タイ語・カンボジア語グループ	多言語支援センター掲示板	5 名
合計		28名

(7) 参加者の声

今回の訓練の参加者に対してアンケートを実施したところ、いくつかの成果と課題が浮き彫りになりました。ほぼ全員の参加者が、「今回の訓練は実際に災害が起きたときに役に立つと思う」と答え、訓練の必要性や重要性について評価する意見が多数を占めました。また、「ネットワークによって助かる人が出てくるのではないか」「年に一回は訓練を継続できたらいい」などの意見もありました。

また一方で、参加者からは、「実際に災害が起きたら、自分たちが多言語支援センターに集まるのか」「自分がどういう役割を求められているのか分からない」「どれだけの外国人が多言語支援センターのことを知っているのか」という疑問が提示され、多言語支援センターの運営に対する理解や外国人への周知が課題となりました。

訓練内容に関しては、どのグループからもむずかしかったという意見が上がり、特に「やさしい日本語」への翻訳は想像以上にむずかしかったようです。また、翻訳する以前

にどの情報^{じょうほう ほんやく}を翻訳すればよいのか、災害対策本部^{さいがいたいさくほんぶ}からの情報の取捨選択^{じょうほう しゆしやせんたく}のむずかしさに関する意見^{かん いけん めだ}も目立ちました。

(参考^{さんこう})

「今日の訓練^{きょう くんれん}は、実際に災害^{じっさい さいがい}が起きたときにどのくらい役に立つ^{やく た おも}と思いますか」との質問^{しつもん}に対する回答^{かいとう}結果^{けっか}(有効回答数^{ゆうこうかいとうすう} 27)

回答 ^{かいとう}	結果 ^{けっか}
①とても役に立つ ^{やく た}	15名 ^{めい}
②まあまあ役に立つ ^{やく た}	10名 ^{めい}
③あまり役に立たない ^{やく た}	0名 ^{めい}
④まったく役に立たない ^{やく た}	0名 ^{めい}
⑤無回答 ^{む かいとう}	2名 ^{めい}
合計 ^{ごうけい}	27名 ^{めい}

(8) 大和市総合防災訓練^{やまと し そうごうぼうさいくんれん}での紹介^{しょうかい}

2014年8月23日(日)、深見小学校^{ねん がつ にち にち ふかみしょうがっこう}で行われた大和市総合防災訓練^{やまと し そうごうぼうさいくんれん}に参加し、外国人支援^{がいこくじん しえん}ブースを設置^{せつち}して、展示パネル^{てんじ}で多言語支援センター^{たげんごしえん}設置・運営訓練^{せつち うんえいくんれん}の紹介^{しょうかい}や、先の訓練^{さき くんれん}で課題^{かだい}にあがった「やさしい日本語」^{にほんご}へ直す作業^{なお さぎょう}の演習^{えんしゅう}を参加者同士^{さん かしゃどうし}で行い、^{おこな}「やさしい日本語」^{にほんご}への理解^{りかい}を深め^{ふか}ました。



多言語支援センター設置・運営訓練の一コマ
各グループからの報告の様子^{たげんごしえん せつち うんえいくんれん ひと かく ほうこく ようす}

やさしい日本語^{にほんご}とは・・・
普通の日本語^{ふつう にほんご}よりもかんたんで、
外国人^{がいこくじん}にもわかりやすい日本語^{にほんご}
のこと。1995年の阪神淡路大震^{ねん ほんしんあわじ だいしん}
災^{さい}を契機^{けいき}に、外国人^{がいこくじん}が災害発生^{さいがいはっせい}
時^じに適切な行動^{てきせつ こうどう}をとることができ
るように考え^{かんが}出^だされました。

やまとしさいがいたげんごしえん たちあ ず
大和市災害多言語支援センターの立ち上げイメージ図



じしんはっせい
地震発生

やまとしさいがいたいさくほんぶ せっち
大和市災害対策本部の設置

せっち きじゆん
設置基準：
よこはま ち ほうきしやうだい しん ど じゃくいじやう かんそく
横浜地方気象台で震度5弱以上を観測し、
しなひ ひがいはっせい
市内に被害が発生するおそれがあるとき

やまとしさいがいたげんごしえん たちあ じゆんび
大和市災害多言語支援センター立ち上げ準備

やまとし やくしよこくさい だんじよきやうどうさんかくか ちやう
大和市役所国際・男女共同参画課長

やまとしさいがいたいさくほんぶ
大和市災害対策本部

- さいがいたいさくほんぶ せっち ほうこく がいこくじん ひなんしや かくにん
災害対策本部設置を報告。外国人の避難者がいることを確認
- さいがいたげんごしえん たちあ せっち ばしよ かくにん
災害多言語支援センターの立ち上げと設置場所を確認

こうざい やまとしこくさいかきやうかいじむきよくちやう
(公財)大和市国際化協会事務局長

やまとしさいがいたげんごしえん たちあ せんげん
大和市災害多言語支援センター立ち上げ宣言

こうざい やまとしこくさいかきやうかいじむきよくちやう
(公財)大和市国際化協会事務局長

やまとし やくしよこくさい だんじよきやうどうさんかくか ちやう
大和市役所国際・男女共同参画課長

けんがい ただんたい
県外、他団体
おうえんようせい
への応援要請

うんえい さんしゆ
運営スタッフの参集

がいこくじんだんたい
● 外国人団体など

こくさいかきやうかいどうろく
● 国際化協会登録ボランティアなど

がいこくじんしえんだんたい
● 外国人支援団体など

おもしえんないよう
主な支援内容

● そのほかのボランティアなど

じやうほうはん
■ 情報班

きのう
機能①
たげんご
多言語の
じやうほうていきやう
情報提供

じゆんかいはん
▲ 巡回班

きのう
機能②
ひなんじよじゆんかい
避難所巡回

そうむはん
◎ 総務班

きのう
機能③
ボランティアの受け
いれ・問合せ対応

じゆんかいはん
▲ 巡回班

きのう
機能④
がいこくじん ひなんじよなど
外国人避難所等
うんえいしえん
への運営支援

がつ にち くんれん じっし
7月26日の訓練で実施したところ

Ⅲ 報告

2年に亘るこれまでの会議で出された意見や提案、また、フィールドワークを通して見てきたことをここに報告します。

1 外国人市民の災害に関する知識・備えの不足に対する対応

フィールドワークを通して、さまざまな聞き取り調査を行いました。その中で「災害が起きた時、グループで事前に対応を考えていることはありますか」との問いに対して、具体的な対応を考えている団体は、在日本ラオス協会を除きありませんでした。さらに、「災害の時の避難所を知っていますか」という質問からは、自分の避難所を知っている外国人が多くないことがわかりました。

また、「外国人専用の避難所があれば利用しますか」の問いに対しては、「利用する」、「利用しない」と答えた人がそれぞれほぼ同数でした。「利用する」と答えた人にその理由を尋ねると、日本語の理解不足や生活習慣の違いなど避難所での生活に対する不安を挙げる人がほとんどでした。

地震の多い日本と違い、母国では地震をほとんど経験したことがないという外国人は、地震災害に対する教育を受けていないため、地震が発生した場合の対処方法がわかりません。また日本語の理解が不十分な人は、避難所の場所や機能など、災害への備えに係わる情報すら持っていないという問題を抱えています。彼らが、行政機関などが発信する情報を得ることができないために、情報難民になってしまったり、精神的な不安を抱えたりすることのないよう、多言語や「やさしい日本語」での災害に係る情報の提供が重要です。

そこで、本会議では、防災に関する情報が不足している外国人に、事前に知らせておきたい防災情報を検討し、やさしい日本語で表記した素案を作成しました(24 ページ参照)。災害が起きた時に取るべき初期行動、市からの防災情報の入手方法、避難するときのために備えておきたい物、国際化協会の連絡先、そして多言語での情報提供を行うとする多言語支援センターの案内などを掲載しています。市は、地域防災計画の中で、「多言語およびやさしい日本語による広報の充実やリーフレットの作成」を行うとしています。実際作成するにあっては、ぜひ、わたしたちが作成した素案を活用いただけるよう望みます。

2 「支援される側」としてだけでなく「支援する側」としての外国人市民

フィールドワークにおける聞き取り調査では、「支援する側の一員として、日本人と一緒にサポートしたい」「外国人の一人として(同国人の中で)リーダーシップを発揮したい」

という声も聞かれ、必ずしも、すべての外国人に対して支援が必要というわけではないことがわかりました。また、災害ボランティアとしての協力に関する聞き取りでも、「他者をサポートしたい」という意思がほぼすべての外国人にあることが明らかになりました。このことは、外国人が正確な情報を入手することができれば、日本人被災者と同じ行動をとることが可能となり、外国人は、災害時に支援を受ける側だけでなく、外国人を支援する側の担い手にもなり得ることを意味しています。そのことを認識し、彼らの能力を発揮できる仕組みを整えていくことが大切です。

3 外国人市民への情報提供

災害時において外国人へどのように情報を提供していくべきか、委員の間で話し合った外国人の抱える課題の解決に対して、それぞれの団体から回答を得ることができました。

「行政から出される情報はどのような方法で提供してほしいですか」の問いに対しては、インターネット、Facebook を通しての情報提供を希望する声がありましたが、それらを使い慣れていない外国人も多いことから、一番要望が多かったのは、紙媒体での提供でした。また、市の防災無線(スピーカー)も有効とする声もありました。

「普段、どのように連絡をとりあっていますか」の問いに対しては、「電話、郵便、インターネット(Eメール、Skype、Facebook、LINE)を利用する」との回答があり、外国人の連絡手段は、多様化していることがわかりました。

これらの回答から、災害時の行政情報の提供はいくつもの方法によって行われる必要があることがわかり、これらのニーズに対応できる仕組みとして、多言語支援センターの機能が非常に重要になってくることを再認識しました。

4 災害多言語支援センター設置・運営訓練の必要性

訓練の参加者からは訓練を継続することが大事だとする声がありました。今回、わたしたちが手がけたネットワークが災害時に機能するためには、少なくとも年に一回程度の多言語支援センター設置・運営訓練を実施し、参加者の間で災害時の外国人支援という目的を共有しながらネットワークの関係性を維持する必要があるのだと考えます。今後こうした訓練が継続されることを、大和市および国際化協会の双方に要望します。

また、今回行った訓練は、多言語支援センターの支援内容のうち、「多言語の情報提供」に係る訓練のみにとどまり、避難所の運営や巡回などを含めた訓練は行いませんでした。今後の訓練では多言語支援センターの運営方針を確立した上でボランティアの役割を明確にし、内容の充実が図られることを望みます。

実際の災害現場では、多くの混乱が生まれ、わたしたちの予想を超えた事態が起こらないとも限りません。今回行った訓練で、あるグループでは、情報の取捨選択をする際に、メンバーの意見がうまくまとまらず、翻訳作業に入る前の意見の集約に時間がかかってしまい、情報提供をするまでに至らなかったケースがありました。

その報告を聞いて感じたことは、災害が起きたときに外国人への情報提供をスムーズに行うためには、災害が起きる前に、情報提供の際に必要な基本情報の整理を行い、緊急時に速やかにその情報を取り出すことができるような普段からの備えが大切だということです。

5 さらにネットワークづくりに向けて

フィールドワークを実施して、外国人の災害に対する意識がどのようなものか、また抱えている課題にはどのようなものがあるのか、ということに対して理解を深めることができました。

外国人当事者団体は、それぞれ現実の課題対処に追われつつも、災害対策が重要であることを認識しています。彼らは日頃の活動の中で、同胞の外国人に母国語で情報の提供を行い、また、問題が発生した際には、状況をいち早く把握し、問題の解決に向けて必要な支援を行っています。その対応は、混乱を極める災害発生時において、外国人にとって必要不可欠な支援です。

会議における話し合いやフィールドワークを実施したことにより、そこに新たな関係性が生まれました。外国人市民を含めた多文化がつながるネットワークは、ネットワークをつくることを目的とするのではなく、また、目的を不明確にネットワークづくりだけを重要視するのでもなく、何かの課題を目的に話し合ったりするなかで必然的に生まれてくるものであることが、今回のフィールドワークを通してわかりました。したがって、今後いろいろなテーマのもとに、こうした試みが行われることで、当該の課題に必要なネットワークが作られていくものであると想像できます。

今回、わたしたちが手がけたネットワークは、災害時に外国人市民へ情報が確実に伝わるというルートを築くことにつながり、外国人市民にとって、また地域にとっても、大切なセーフティネットになることでしょう。

これからも、大和市、国際化協会が中心となって、関係団体、機関、そして外国人市民が協力し合えるネットワークの構築が継続されることを強く望みます。

わかりやすい

ぼうさい 防災マップ(地震)

地震が起きた!

地震のすぐあと

- 頭を守る (机の下に入る)
- 火を消す



1~2分後

- ドアや窓を開ける (逃げ道のため)
- 靴をはく (足を守るため)



10分~半日後

- 車、電話は使わない
- テレビ、ラジオをつける (情報を得る)



半日~3日後

- みんなで助け合う
- 避難所でのルールを守る



- 電話(1) 046-260-5125
- 電話(2) 046-260-5126



地図

大和市深見西8-6-12



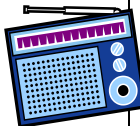
■スピーカー

スピーカーを使って情報を届けます。
フリーダイヤル 0120-112-933



■FM やまと(77.7MHz)

FM ラジオです。



■大和市ホームページ

(大和市防災情報システム)
<http://www.bousaiyamato.jp/>

■やまと PS メール

前に申し込みがあります。



- 懐中電灯
- 携帯ラジオ

- 電池
- 携帯電話・充電器

- 非常食(レトルト食品、缶詰など)

- 飲む水
- 粉ミルク

- 携帯トイレ
- トイレ用ペーパー

- ウェットティッシュ
- マスク

- ヘルメット
- 軍手
- レインコート

- 現金、通帳
- パスポート

- 身分証明書(在留カード・外国人登録証明書)
- 健康保険証

- いつも飲むくすり



- 非常食(レトルト食品、缶詰など)

- 飲む水
- 調味料

- タオル
- 洗面用品

- 上着など
- 卓上コンロ

- ビニール袋
- ライター



■大和市国際化協会WEB サイト

<http://www.yamato-kokusai.or.jp/>

■外国人のためのセンター

※大きな災害が起きたとき、外国人市民に多言語の情報を届けます。

IV 資料

1 第3期大和市多文化共生会議設置要綱

(目的)

第1条 公益財団法人大和市国際化協会(以下「協会」という。)は、以下の目的を達成するために、大和市から委託を受け、第3期大和市多文化共生会議(以下「会議」という。)を設置する。

- (1) 大和市における多文化共生社会の実現
- (2) 外国人市民の地域参加の促進
- (3) 日本人市民と外国人市民が共生・協働するための課題の解決に向けて協議できる場の設定

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 多文化共生
国籍、民族、性別、年齢などが異なる様々な文化や個性を持った人々が、互いの違いを認め合いながらも、社会の一員として社会全体を豊かにしていくこと
- (2) 外国につながる市民
日本以外の国籍を有する者の他に、日本国籍を有していても、外国に文化的背景を持つ者を含む

(所掌事務)

第3条 会議は、第1条の目的を達成するために、次に掲げる各号について調査審議し、協会理事長に対してその結果を報告する。

- (1) 大和市の多文化共生を推進する環境の整備に関すること
- (2) その他必要と認められる事項

(構成等)

第4条 会議は次の各号のいずれにも該当する者の中から日本人市民及び外国につながる市民およそ10名の委員で構成される。

- (1) 年齢満18歳以上である者
 - (2) 大和市に在住・在勤・在学・在活動している者
- 2 委員の任期は2年とする。
 - 3 委員は公募により選任し、協会理事長が委嘱するものとする。

(委員の責務)

第5条 委員はすべての市民のために職務を遂行し、特定の国や民族・組織の利益を代表しない。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いたあとも同様とする。

(委員長及び副委員長)

第6条 会議に、委員長及び副委員長をおき、委員の互選により定める。

2 委員長は会議を代表し会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、また委員長がかけたときはその職務を代理する。

(運営)

第7条 会議は、委員長が招集し、その議長を務めるものとする。

2 会議の運営は、自主的な運営により行われるものとする。

3 会議は、必要に応じて部会、ファシリテーターを置くことができる。

4 会議は原則として公開とする。

5 委員長は、2年間の任期中の活動をまとめて協会理事長に報告しなければならない。

(推進体制)

第8条 協会理事長は、前条第5項の規定による報告を受けたときは、大和市に報告するとともに、これを市民に公表する。

(庶務)

第9条 会議の庶務は、協会事務局において処理する。

(補足)

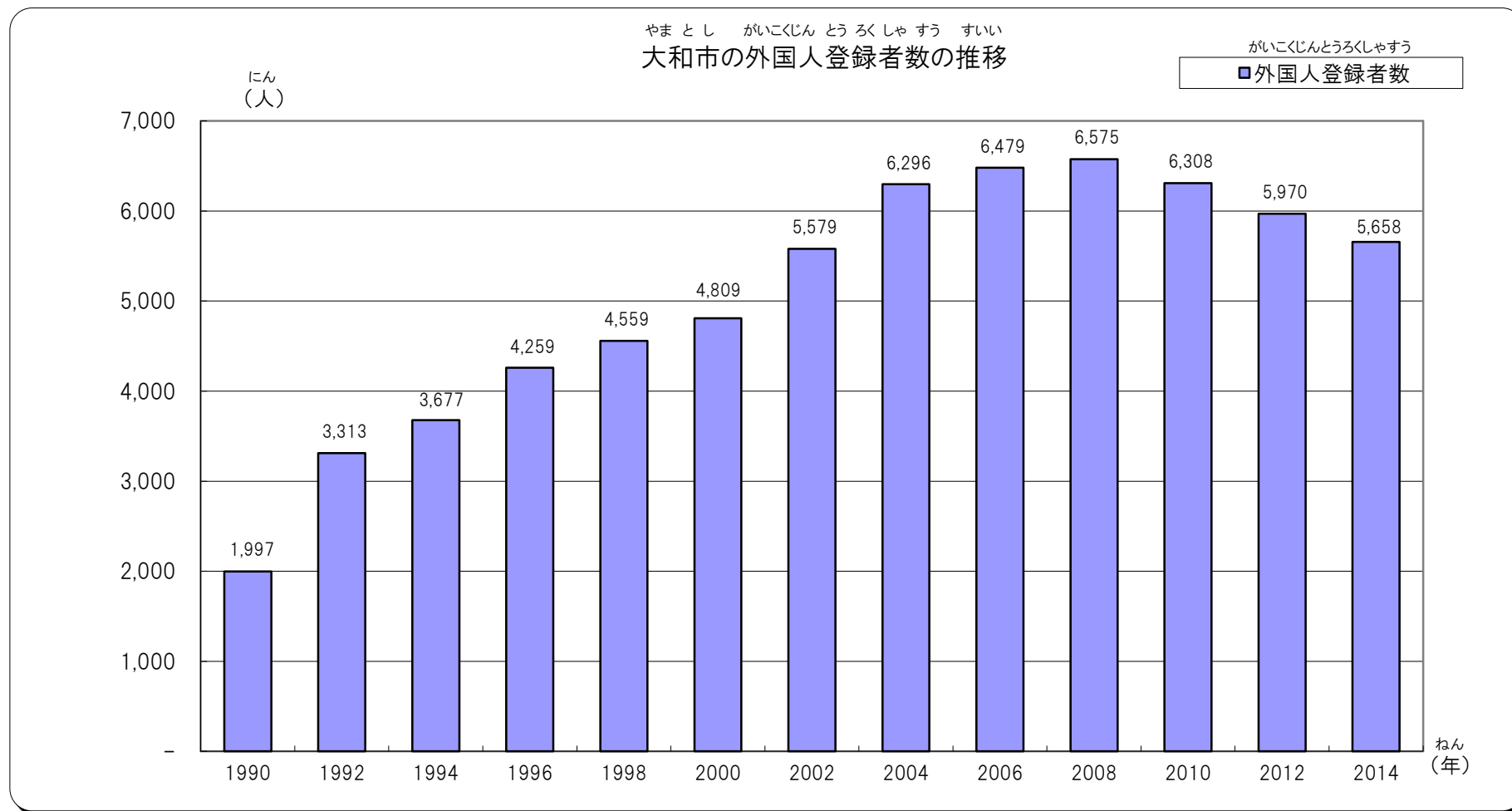
第10条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営について必要な事項は別に定める。

附則

この要綱は、2012年11月1日から施行する。

2 大和市の外国人登録者数の推移

各年4月1日時点



データ: 大和市民課

3 やま と し がいこくじんとうろくしゃだんじよべつねんれいべつうちわけ
 3 大和市外国人登録者男女別年齢別内訳

(2014年8月時点)
ねん がつ じてん

	そうごう 総合	だんせい 男性	じよせい 女性	0~5歳 さい	6~15歳 さい	16~59歳 さい	60歳以上 さい いじょう
	ごうけい 合計 5,687	ごうけい 合計 2,590	ごうけい 合計 3,097	ごうけい 合計 289	ごうけい 合計 471	ごうけい 合計 4,446	ごうけい 合計 481
1	ちゆうごく 中国 1,181	ちゆうごく 中国 549	ちゆうごく 中国 632	ちゆうごく 中国 63	ペルー 105	ちゆうごく 中国 1,007	かんこく 韓国 208
2	かんこく 韓国 772	ペルー 416	フィリピン 526	ベトナム 58	フィリピン 76	フィリピン 593	ペルー 49
3	ペルー 755	かんこく 韓国 296	かんこく 韓国 476	ペルー 36	ちゆうごく 中国 69	ペルー 565	ちゆうごく 中国 42
4	フィリピン 707	ベトナム 285	ペルー 339	フィリピン 27	ベトナム 62	かんこく 韓国 522	ちようせん 朝鮮 36
5	ベトナム 588	フィリピン 181	ベトナム 303	ブラジル 22	ブラジル 33	ベトナム 440	ベトナム 28
6	ブラジル 313	ブラジル 161	ブラジル 152	カンボジア 13	かんこく 韓国 33	ブラジル 231	ブラジル 27
7	タイ 228	タイ 89	タイ 139	インドネシア 10	カンボジア 15	タイ 209	たいわん 台湾 20
8	カンボジア 161	カンボジア 69	カンボジア 92	かんこく 韓国 9	タイ 15	カンボジア 120	べいこく 米国 16
9	ラオス 102	べいこく 米国 61	たいわん 台湾 67	ラオス 7	パキスタン 10	ラオス 79	カンボジア 13
10	べいこく 米国 91	ラオス 51	ラオス 51	スリランカ 5	ラオス 9	べいこく 米国 65	フィリピン 11
11	たいわん 台湾 82	ちようせん 朝鮮 33	ちようせん 朝鮮 44	ネパール 5	アルゼンチン 7	たいわん 台湾 60	アルゼンチン 7
12	ちようせん 朝鮮 77	アルゼンチン 31	アルゼンチン 33	しゅつしょう けい かたいざいしゅ 出生による経過滞在者 5	ボリビア 6	アルゼンチン 46	ラオス 7
13	アルゼンチン 64	インドネシア 31	べいこく 米国 30	アルゼンチン 4	べいこく 米国 6	インドネシア 41	パラグアイ 3
14	インドネシア 53	スリランカ 31	インドネシア 22	パキスタン 4	イラン 4	スリランカ 38	ボリビア 3
15	スリランカ 47	パキスタン 27	ボリビア 20	バングラデシュ 4	スリランカ 4	ちようせん 朝鮮 38	タイ 2
-	ほか その他 466	ほか その他 279	ほか その他 171	ほか その他 17	ほか その他 17	ほか その他 392	ほか その他 9

やま と し こくさい だんじよきょうどうさんかく か
 データ: 大和市国際・男女共同参画課

へん しゅう だい き やま と し た ぶん か きょうせい かい ぎ
編 集: 第3期大和市多文化共生会議

ねん がつ
2014年12月

はっ こう こう えき ざい だん ほう じん やま と し こく さい か きょう かい
発 行: 公益財団法人大和市国際化協会

〒242-0018

か な がわ けん やま と し ふか み に し
神奈川県大和市深見西8-6-12

やま と し やく し ょ ぶん ち ょ う し ゃ かい
大和市役所分庁舎2階

TEL 046-260-5126 FAX 046-260-5127

URL <http://www.yamato-kokusai.or.jp>